

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

2021年

・『**経済がわかる論点50 2021**』みずほ総合研究所 東洋経済新報社 1600円＋税

・『**これからの日本の論点2021日経大予測**』日本経済新聞社編 日本経済新聞出版 1800円＋税

・『**文藝春秋オピニオン 2021年の論点100**』吉地真編集 1500円＋税

2021年はどんな年になるのでしょうか？冒頭にあげた3冊の本から、暗くないものを選んでみました。

★**マイクログリーン（文芸春秋）**：幼葉野菜と漢字にしてもよくわからないかもしれませんが。土やスポンジなどの培地に種を蒔き、発芽後2～3週間ほどの若芽のうちに収穫する。馴染みの深いカイワレ大根も、「ラディッシュ・マイクログリーン」と呼ばれる幼葉野菜の一つ。アメリカで1980年代から栽培されるようになったマイクログリーンだが、2014年に米農務省が「非常に栄養価の高い野菜」と評したことで注目され、世界各国で生産者が急増している。

日本でも最近増えてきており、全国で50～60件の業者がいる模様。これから認知度も高まれば生産者も増え、マイクログリーンが普及していくだろう。

★**デタラメ経営が生存確率を高める（文芸春秋）**：環境変化が大荒れの時、不確実性が高く予測が不可能な場合には、とりあえずいろいろやってみろということである。事前に生真面目に準備すればいいというものではなく、むしろデタラメでいい加減なくらいでよい。デタラメな試行錯誤をスピードアップして繰り返した方が、当たりを引く可能性が高くなる。

★**テレワーク（みずほ）**：新型コロナの流行

に伴ってテレワークの導入が急加速している。2018年の総務省調査では導入率は19.8%であったが、緊急事態発令後に経団連が実施した調査では97.8%が導入したと回答した。テレワークは多様な人材の活躍、優秀な人材の獲得などとして有効と考えられており、コスト抑制効果もある。一方テレワーク導入にあたっての課題には、通信環境の整備、機器の導入などのほかに、業務オペレーションの再構築という問題がある。また、対面コミュニケーションの喪失への対処の問題もある。

テレワークへの対処は、新型コロナ対応だけでなく、今後の様々な環境変化への対処にもつながる。

★**ヘルステック**：ヘルスとテクノロジーからなる造語。モバイルサービス、AIなどを活用した新しい健康・医療・介護サービスを指す。新型コロナウイルスの感染拡大によりヘルステックの利用ニーズが拡大している。

様々な測定機器が職場や家庭で利用されるようになっていくとともに、オンラインでのバイタルデータを共有しての健康相談・診療支援も広がっている。

★**コロナで生まれる新しい消費と流通（日経）**：新しいマーケティング手法がロックダウン化の中国で注目を集めた。「ライブコマース」だ。生中継のテレビ通販のようなもので、ネットを使うため双方向のコミュニケーションが可能で、視聴者からの問い合わせにもダイレクトに答える。

上海のあるショッピングセンターでは、3月8日の国際女性デーに終日SNSでライブコマースを実施した。テナント60店の販売員が入れ代わり立ち代わりで商品を説明したのだ。同センターに出店する資生堂も参加し、1時間で70万円を売り上げた。

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

ウイズコロナの中小企業

大同生命が「one hour」という月刊情報誌を出しています。無料で実物を配布していますし、ネットからもPDFで取得することができます。この11月号に「ウイズコロナ時代中小企業に求められるマーケティング戦略とは？」という記事がありました。簡単にご紹介することにします。

★事業の再定義：考えるべき選択肢は三つ

- ①リアルな事業だけで進める
- ②ネット通販などバーチャルの事業を強化して主軸にする。
- ③リアルとバーチャルの融合で進める。

とはいうものの①のみでは心もとない。

★中小企業のままで大きくできる：ITを使えば、小さいままで年商を拡大できる。

★広告宣伝費用が下がっている：SNSを上手に使えば、低費用で大きな効果を得られる。

★ウイズコロナの有望ビジネス

- ①リモートワーク：リモートワークに関連するIT機器、その保守管理サービス
- ②サテライトオフィス・シェアオフィス：古民家を改装して、あるいは自社のオフィスの一部を提供
- ③3密防止関連ビジネス：衝立、フェイスガード、自動、ロボット化システム
- ④おうち時間ビジネス：ゲーム販売ビジネス、中古品活用サポートサービス
- ⑤オンデマンドビジネス：ユーザーの個別要望に応える。フィットネス、料理レシピなどの動画配信サービス
- ⑥スマートフォン活用ビジネス：高齢者の保有率増加・・・などです。

(<https://www.ganbarusite-daido.jp/onehour/oh202011/>) 記事を読むのは無料です。ただし、会員登録する必要があります。

コロナで新分野

ベアテイルという会社が、請求書のペーパーレス化サービスを始めました。日経トップリーダー2021年1月号の記事から紹介します。

ベアテイルは、家計簿アプリや経費精算の領収書を電子化するRECEIPT POSTのサービスを提供している。同社が、既存サービスのユーザー企業にコロナ禍の困りごとを聞いて回る中で、請求書の問題が多く挙がった。「社員の出社が減り、請求書が社内に滞って支払い遅れが起きた」「郵送で届く請求書进行处理するために経理の社員は出社しなくてはいけない」という悩みだ。そこでその悩みを解決するための製品開発に着手した。出来上がったのが請求書のペーパーレス化サービス「インボイスポスト」だ。

インボイスポストの特徴は、ユーザー企業に代わって、ベアテイルが請求書を受け取ることだ。ユーザー企業の取引先に請求書の送り先をベアテイルにしてもらうのだ。請求書を受け取ったら1日以内にPDF化し、スタッフが記載内容のデータ入力まで済ませる。これによりユーザー企業は、請求書のPDFと入力内容をインターネットで見ることができる。紙の請求書はベアテイルが倉庫で10年間保存する。倉庫は地方にある。

以上、簡単に記事をご紹介しました。ペーパーレス化、IT化のお話ですので、この会社、ベアテイルも人手をかけない、省力化された仕事をするのかと思って記事を読みましたが、とんでもない手間をかけているようです。人が困っていることに手間をかけてお金にしているわけです。要するに、アウトソーシングの新しいネタを見つけたわけです。そして、ITとアナログ、新旧の融合だと思いました。